

渡航者医療センター

● スタッフ（平成30年10月1日現在）

診療部長 濱田 篤郎

医師数 常勤 3名
非常勤 3名

● 診療科の特色・診療対象疾患

渡航者医療センターはトラベルメディスン（渡航医学）の専門診療科である。渡航医学は海外渡航者の健康問題を総合的に扱う領域で、近年の国際化に伴い、日本でも需要が高まっている分野である。

当センターでは海外渡航者に総合的な診療を提供することを目標とし、とくに予防医学的な診療に力を注いでいる。健康問題別では感染症関係の診療が中心になっており、出国前にワクチン接種や薬剤投与などの予防対策を提供している。黄熱ワクチンの接種も可能である。帰国後の有症者の診療も感染症科と連携して行っている。さらに、慢性疾患を抱える渡航者や小児渡航者には、個別の健康指導を行っている。これに加えて、高地に滞在する渡航者向けの専門外来や海外渡航者のメンタルヘルスに関する専門外来を設置している。

● 診療体制と実績

(1) 外来診療の実績

渡航者医療センターでは外来診療のみを行っている。表1に2011～2018年度の外来診療の実績を示す。

表1. 渡航者医療センターの診療実績
(2011～2018年度)

項目	年間平均数
総受診者数	4,736名/年
初診者数	2,016名/年
小児受診数	758名/年
診療項目別	
予防接種	4,350名/年
健康診断	152名/年
高山病外来	150名/年
帰国後診療	80名/年

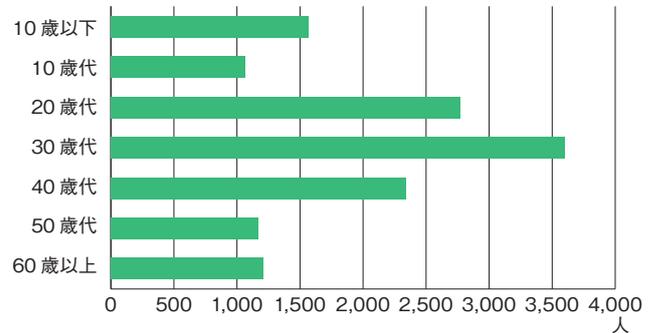
総受診者数は年平均4,736名で、このうち約43%は初診者が占めていた。また16%が小児である。診療項目別で見ると、予防接種が4,350名と最も多く、これに健康診断や高山病外来が続いた。なお、当センターでは帰国後診療以外は全て自費診療を行っている。

(2) 受診者の特徴

2011～2017年の初診者13,711名の特徴を紹介する。性別では男性が56.7%を占めていた。年齢は20歳代～50歳代で72.0%を占めたが、10歳以下の小児が11.4%で、60歳以上の高齢者も8.8%だった（図1）。渡航期間

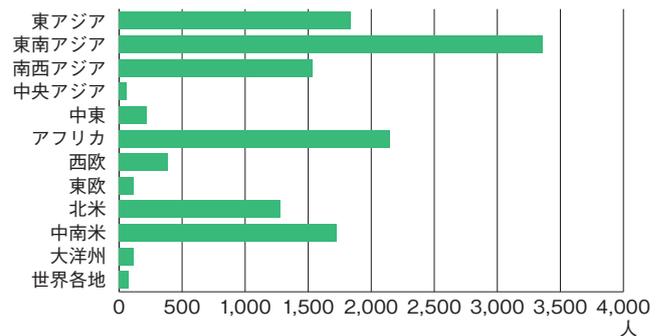
は1年以上の長期滞在者が43.4%で最も多いが、1ヶ月未満の短期滞在者も37.6%だった。渡航目的は、仕事（帯同家族も含む）が67.2%と7割近くを占めており、観光17.0%、留学8.6%と続いた。

図1. 受診者の年齢（2011～2017年）



渡航地域は東南アジア（26.1%）、東アジア（14.3%）、南西アジア（11.9%）などアジア圏の割合が高く、アフリカ（16.7%）、中南米（13.4%）がこれに続いた（図2）。一方、北米（9.9%）、西欧（3.0%）などの先進諸国は少なかった。

図2. 受診者の渡航地域（2011～2017年）



(3) 接種したワクチンの種類

2017年に受診者に接種したワクチンの種類を図3に示す（延べ接種人数）。A型肝炎、狂犬病、B型肝炎、破傷風、黄熱が上位を占めていた。このうち、A型肝炎では35.5%、狂犬病では86.7%が輸入ワクチンだった。また、腸チフス、ダニ媒介脳炎、コレラなどは全て輸入ワクチンで接種を行った。

図3. ワクチンの種類
(2017年の上位ワクチンの延べ数)

